

生時代、還暦なんて未来の話だったはずなのに。私は昭和40年生まれ、ということとは来年昭和100年！これも昭和世代には感慨深いですね。

学ぶこと

子どもは自然と日本語を覚えていきますが、英語を流暢に喋れる日本人は少ないですね。母国語はなにか特別なのかと思っていました。先日、ある本を読んでいてすごく合点がきました。

例えば赤ちゃんにリンゴを見せて、「これはリンゴだよ」と教えたとしても。教えている親はリンゴを知っているのです、これで教えた！という気になっていますが、赤ちゃんは「この赤いものがリンゴ？丸いものがリ

ンゴ？へタがあるものがリンゴ？」と範囲を持って想像しています。次にソフトボールを見せると「これはリンゴ？」というような疑問を持ちます。そこで大人が「これはソフトボールだよ」と言うと、赤ちゃんは「白い丸いもの」のことをソフトボール、赤いものはリンゴかな？」とまた疑問を持ちます。そこに「リンゴ



や梨は果物だよ」という新たな枠組みが来たりします。すると、「梨とリンゴの違いは何？色？大きさ？」と

考えたりします。このように、範囲を広めたり狭めたりしながら疑問を持ち、自分で決しながら言葉を獲得していきます。一方、英語の勉強はどうでしょう

か。英和辞書や「でる単」（昭和の人間にはわかるはず）で単語や構文を暗記することから初めます。そうすると、回答がそこにあるので幅が出てきません。要は暗記だけで学ぶことになってしまっているので、細かいニュアンスや感情表現などが苦手なのです。

そう考えると、



今の学校教育って教え過ぎなのじゃないかと思えます。昔の寺子屋や吉田松陰の松下村塾のような私塾も教科書があって覚えさせるというスタイルではなく、デイスカッションしながら考えていく形式だったようです。学ぶとはそういうことだと思えます。